

領域	問題番号			出題の意図	評価の観点				
	大問	小問	通番		聞く能力	書く能力	読む能力	言語事項	
聞くこと・話すこと	一	一	1	どのような事実を取り上げて話しているかを正しく聞くことができる。					
		二	2	話し手の意図を考えながら、説得力のある説明の仕方について正しく聞くことができる。					
		三	3	話し手の立場を理解しながら、話の内容を正しく聞くことができる。					
		四	4	話し手の説明の仕方の工夫を正しく聞くことができる。					
読むこと	二	一	5	指示語が指し示す内容を正しく理解しながら読むことができる。					
		二	6	文章における語句の意味を正しく理解しながら読むことができる。					
		三	7	筆者の論理の展開を正しく理解しながら読むことができる。					
		四	8	文章の要旨を正しく理解しながら読むことができる。					
		五	9	表現の仕方や文章の特徴を正しく理解しながら読むことができる。					
		六	10	文章を読んで、筆者の意見について自分の考えとその理由をもつことができる。					
言語事項	三	1	11	中学校2年生までに学習した漢字を正しく読むことができる。					
		2	12						
		3	13						
		4	14						
	一	5	15	小学校6年生までに学習した漢字を正しく書くことができる。					
		6	16						
		7	17						
		8	18						
	三	1	21	文の意味をとらえて語句を正しく使うことができる。					
		2	22	対義語を正しく使うことができる。					
		二	3	23	同訓異字の言葉を正しく使うことができる。				
			4	24	同音異義の言葉を正しく使うことができる。				
	三	1	25	単語の働きを正しく理解している。					
		2	26	慣用的な表現を正しく使うことができる。					
		三	3	27	敬語を正しく使うことができる。				
			4	28	古文の仮名遣いを正しく理解している。				
書くこと	四	一	29	資料から分かることを、主語・述語が整った文で書くことができる。					
		二	30	資料をもとに具体的な例や体験から自分の考えや理由をもち、決められた字数で書くことができる。					
					/4	/2	/6	/18	

今後の学習に向けて *自分がかんばりたいところに○を付けましょう。

聞く能力	<ul style="list-style-type: none"> 「話し手の意図を考えながら聞くこと」「事実と意見の関係に注意して聞くこと」「説得力のある話となるよう内容や話し方などに気をつけながら聞くこと」など、国語の授業で学習した聞き方について、復習しましょう。 国語の授業で学習した大切な聞き方を、他教科の授業や毎日の生活で話を聞くときにも生かしましょう。
書く能力	<ul style="list-style-type: none"> 最初に、自分の考えをはっきりさせ、何を伝えるかを明確にしましょう。その上で、自分の考えを伝えるためには、どのような根拠を用いると効果的かを考え、ふさわしい根拠を選び出すことが大切です。説得力のある根拠とするには、自分の経験に基づくものが効果的です。その上で、話のまとまりごとに段落に分けて書くようにしましょう。 一度書いた文章を、読み手の側になって読み返し、分かりにくいところを書き直すことも大切です。
読む能力	<ul style="list-style-type: none"> 説明的な文章を読むときには、「筆者は何を伝えようとしているのか、その考えはどのような根拠で説明されているか」「分かりやすく表現するために、筆者はどのような構成で考えを述べているか」などに注意して読み、読み取ったことをもとに自分の考えをもつようにすることが大切です。国語の授業で学習した説明的な文章の読み方を復習したり、読書の時間を利用して説明的な文章を読むことに挑戦したりしましょう。 国語の授業で、自分の考えを積極的に発言したり、他の考えと比べて聞いたりしながら、自分の考えを深めるようにしましょう。
言語事項	<ul style="list-style-type: none"> 漢字については、どこが間違っているかを明らかにし、正しい字で繰り返し練習することが大切です。また、読み方が分からない場合は辞典等で確かめたり、学習した漢字を使って書いたりする習慣をつけましょう。 同音異義・同訓異字の言葉、敬語、慣用的な表現、古文の仮名遣い等については、教科書等を使って復習するとともに、本や新聞を読む機会にも表現の仕方にも注意することが大切です。

